

第14回学術集会報告

第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
会長 成田 一衛

新潟県健康づくり・スポーツ医科学センターセンター長
(新潟大学名誉教授)

2024年3月16(土)-17日(日)、新潟市朱鷺メッセにて第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会を開催致しました。3月の新潟には好天に恵まれ、盛会のうちに終了しました。今会は、“患者中心の腎臓リハビリテーション～治し、癒し、祈る～”をテーマと致しました。多職種からなる医療チームの“中心”に患者本人が在るべきで、人生会議、共同意思決定、保存的腎臓病治療などの必要性は認識され、ガイドラインも公表されています。一方、それらを日常臨床において適切に実践することは容易ではなく、さらなる医療体制や医療技術の確立、社会環境の整備が必要です。私共医療者は、疾患に対して医学的に最善の治療を行うと同時に、患者個々の人生観や意思を尊重して寄り添うことが求められます。そのためには十分な相互理解、患者を中心とする医療チームでの対話が重要であり、“治し、癒し、祈る”にはこの想いを込めました。

本会では今までの本学会の成果に基づいて、さらな

る腎臓病患者のQOL向上、腎予後・生命予後の改善のための取り組みや研究成果を共有したいと考え、多くのシンポジウムや企画を設定しました。また緊急企画として能登半島地震でのCKD、腎不全患者のケアの経験をご発表頂き、日頃の備えの参考になればと考えました。新潟ならではの企画として、会員懇親会の直前に“日本酒と腎臓”と題したシンポジウムを行い、日本酒を楽しみながら日本酒学、醸造学、さらには腸管細菌叢と腎臓に関する最先端の知見を学ぶ企画を行いました。

200件を超える一般演題、YIAセッション、シンポジウム、教育講演、特別講演などに加え、特別企画として新潟を代表する芸術家で文化庁長官を務められた宮田亮平氏をお招きし、芸術・文化と“癒やし”・“祈り”について皆様とともに考える機会になりました。

末筆ながら、ご参加頂いた先生方、ご協賛頂いた企業の皆様に厚く御礼申し上げます。本学会と皆様の益々の御発展を祈念致します。有り難うございました。

